

小児歯科保健医療の現状と展望



日本歯科医師連盟評議員

いぬづか子供歯科クリニック（静岡県浜松市）

犬塚 勝昭

略 歴

1976年 広島大学歯学部 卒業
財団法人 ライオン歯科衛生研究所附属ライオンファミリー
歯科診療所（名古屋）入所

1983年 いぬづか子供歯科クリニック開設

1991年 愛知学院大学にて歯学博士取得
日本小児歯科学会専門医・指導医

現 職

日本歯科医師連盟評議員 日本小児歯科学会常務理事 全国小児歯科開業医会副会長
静岡県小児歯科研究会副会長 浜松市歯科医師会監事

日本は優れた医療制度を持つ国であり、GDPに対する医療費の比率が低い割には健康寿命、健康達成度は世界一である。国民の医療費は年々増加しているが、歯科医療費については、横ばいかつかなり低額でグローバル・スタンダードの観点から著しく乖離した実態がある。日本歯科医学会ではタイムスタディ調査を行い、本来どのくらいの費用が適当か検討しているが、たとえばCR充填では現在の保険点数の2.5倍は必要という評価をしている。

小児歯科保健医療に関しては、う蝕が減少し現在の疾病治療中心の保険制度では経営が困難な状況にあり、歯科矯正治療を並行して行っている医院が増加傾向にある。

今後、学会としても小児歯科専門医に定期的に通院していれば病気の再発防止ができるという医院システム作りと歯科医療経済効果を含めた根拠あるデータ作りが必要である。

前執行部では学会が取り組むべき研究課題の優先順位を5つ作成し、低年齢児の診療導入に関しては論文としている。さらに最重要課題として乳歯を用いた再生医療研究を掲げているが、歯科関連企業と連携して最新技術、器材材料の開発をとおして保険導入を目指すことも大切である。

以上のような小児歯科医療の発展および会員の診療環境の改善のためには政治的活動が必要である。我々歯科医師の仲間を国会に送り込み、一人でも多くの政治家に理解と協力を求めていくことが重要になってくる。

まとめ

1. 日本小児歯科学会、日本歯科医学会ではタイムスタディ調査を行い適切な診療報酬評価を提案しているが、厚労省&政府は日本の医療費の「適正額数値とその根拠」を明確にすべきである。
2. 小児歯科専門医に定期的に通院していれば歯と口の健康の維持増進・病気の再発防止ができるという医院システム作りとEBMの国民への提示が必要である。
3. 小児歯科医療の発展のため、学会として取り組むべき研究課題とその優先順位を決めてEBMを作成することが大切である。
4. これらを実現するためには、担当省庁、歯科医師会の連携の他、高い見識を持つ政治家の支援・政治判断が極めて重要である。